

経済・金融 フラッシュ

9月日銀決定会合： 景気の現状、金融環境の判断を前進

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 景気判断を一步前進、アップサイドのリスクも

日銀は17日の金融政策決定会合で、景気の現状判断を「持ち直しに転じつつある」とし、8月の「下げ止まっている」から判断を前進させた。雇用環境は悪化が続いているが、輸出と生産の持ち直しが続いていることを踏まえたもので、上方修正は2カ月ぶりとなる。

リスク要因について、8月はダウンサイドリスクのみの表記だったが、今月は「新興国の回復といった上振れ要因が生じている」とアップサイドリスクについても言及した。

ただし、先行きについては、「09年度後半以降、わが国経済は持ち直していく」というのを基本シナリオとしながらも、景気の下振れリスクが高いとの慎重なスタンスを維持している。

海外経済・金融システム、デフレ、円高、新政権の経済運営など不確定要素を見極めながら先行きの判断を行なうスタンスは当面続きそうだ。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2009年9月	景気は持ち直しに転じつつある。
2009年8月	(据え置き)
2009年7月	景気は下げ止まっている。
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	(据え置き) ↑
2009年3月	(据え置き)
2009年2月	(据え置き) ↓
2009年1月	景気は大幅に悪化している。
2008年12月	景気は悪化している。
2008年11月	景気は、既往のエネルギー・原材料価格高の影響や輸出の減少などから、停滞色が強まっている。
2008年10月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響や輸出の増勢鈍化が続いていることなどから、停滞してい

2. 金融環境の判断も前進、亀井大臣の発言余波に注目

今回の注目は、金融環境の現状判断だった。一部の政策委員からはCP・社債の買い入れなど「異例の措置」解除をにらんだ発言も出始めている。

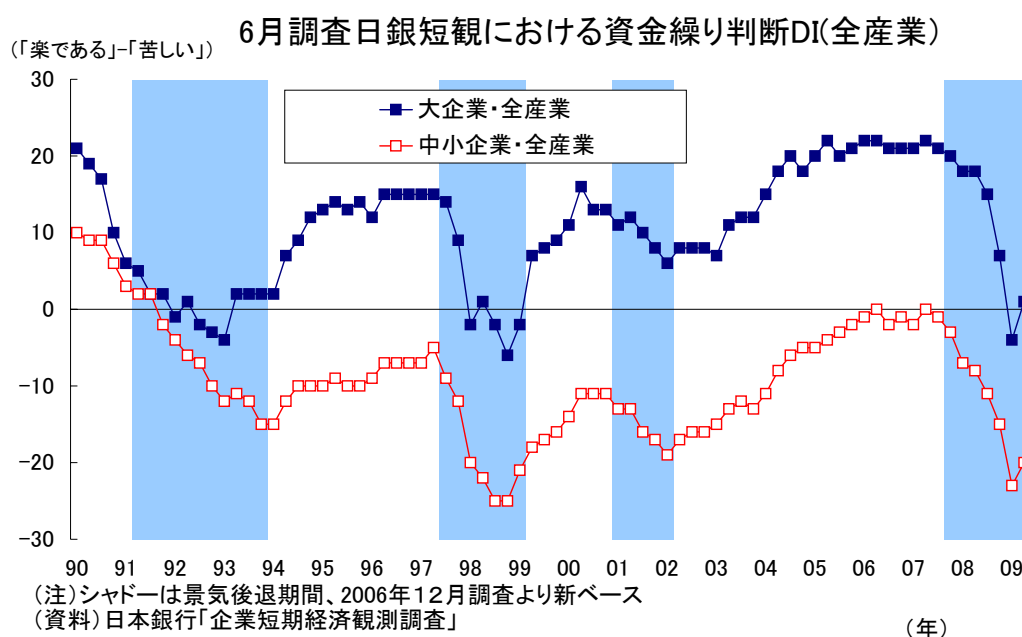
今回金融環境の判断も景気判断とともに前進させている。8月「なお厳しい状態にあるものの、改善の動きが続いている」としていたが、今回は「厳しさを残しつつも、改善の動きが広がっている」とした。また、先

行きの下振れのリスク要因から国内の金融環境を削除している。

白川総裁は会見で、企業の資金繰りについて「中小企業ではなお厳しいとする先が多いが、大企業では改善の動きが明確に広がっている」と説明している。見直しが視野に入っているようだ。

12月の企業金融支援策の再延長の是非は、10月末か11月会合で決定されるだろう。是非は10月1日に発表される日銀短観なども重要だが、それとあわせて、亀井大臣の発言余波も影響しそうだ。

郵政問題・金融担当相に就任した国民新党の亀井静香代表は中小企業による借入金や個人の住宅ローンなど銀行への返済に一定の猶予期間(モラトリアム)を設ける制度の導入について、法案化した上で10月の臨時国会に提出すると会見で述べている。そうなると政府が中小企業支援に乗り出す中で、日銀が支援をやめるという決断は難しくなる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。